

冬ならではの屋外活動を満喫する

ネイパル森

ネイパルで雪まみれ

1 事業のねらい

冬の自然体験活動を通して、異年齢間の交流を図るとともに、冬に屋外で遊び、運動する機会を提供する。

2 事業の概要

- 期日 R5.1.21(土)~22(日) 1泊2日
- 対象 小学校3年生~6年生 40名程度
- 人数 36名(応募67名) ボランティア6名 講師1名
- 場所 ネイパル森、日暮山

3 プログラム

	13:00	13:10	13:55	17:00	18:00	19:40	22:00	
1/21(土)	受付	開会式	活動1【ネイパル森】 仲良くなろう (アイスブレイク)	活動2【ネイパル森】 雪まみれ狩り体験 (林の中を歩き、弓矢で的を狙う)	夕食	活動3【ネイパル森】 たき火をしよう (火を囲み班ごとに交流)	入浴 自由時間	就寝
	7:10	8:45	12:30	13:30	13:50	14:00		
1/22(日)	起床	朝食	活動4【日暮山】 日暮山スノートレッキング (スノーシューを履いて登山)	昼食	アンケート記入	閉会式	終了	

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 冬にしか楽しめないフィールドの活用
 - ・活動2では、ネイパル森に隣接した林の中で狩り体験を行うほか、活動4では事前踏査を重ね、下りで登山道ではなく、新雪が積もった斜面を滑り降りるコースを設定した。ともに、積雪期でなければ立ち入ることのできないフィールドを用意し、冬ならではの楽しみを味わえるよう工夫した。
- 自然の中で参加者の交流を促進するためのプログラム構成
 - ・活動1では、グループリーダーを中心に交流の時間を設け、以降の活動で円滑なコミュニケーションがとれるよう工夫した。
 - ・活動3では薪を足さなくても燃え続けるスウェーデントーチを用いることで、参加者同士がコミュニケーションに集中できるように工夫した。冬にたき火を行う意外性も新たな気づきとなった。

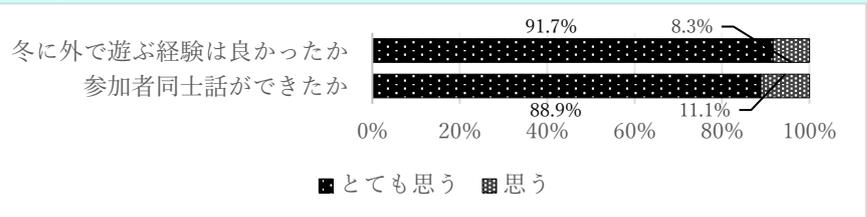


たき火をしよう



日暮山スノートレッキング

5 事業の評価



■参加者アンケートから

・冬の外遊びに関する項目で、参加者全員から肯定的な評価を得ることができた。

■参加者の声

・みんなで汗をかいて登ったのが良い経験だった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 積雪期にしか立ち入ることのできない特別なフィールドで、狩り体験やスノーシューといった様々な屋外活動を組み込むことにより、参加者が自発的に雪中活動を行う意欲を高めることができた。
- スノーシュー合わせと歩行練習に想定以上の時間を要し、活動2の時間を圧迫した。アイスブレイクをこれらの活動の中に組み入れるなどし、活動時間を確保するなど、プログラムデザインに一考を要する。



企画のポイント

夏では入ることが出来ないフィールドを活用し、冬ならではのプログラムを設定。

ネイパルで雪あそび

1 事業のねらい

冬の自然体験活動を通して親子の絆を深めるとともに、北海道の冬を過ごすきっかけとする。

2 事業の概要

- 期日 R5.2.4(土)～5(日) 1泊2日
- 対象 親子
- 人数 19家族59名(29家族88名より抽選)
ボランティア3名
- 場所 ネイパル森

3 プログラム

	11:00 11:30		12:00 13:00		17:00 18:00		19:00 21:30		
2/4 (土)	受付	開 会 式	活動①【ネイパル森】 仲よくなるう	昼 食	活動②【ネイパル森】 雪で遊ぼう (スノーマウント(かまくら)作り)	夕 食	活動③【ネイパル森】 夜のお楽しみタイム (星座観察・シャボン玉)	入浴 自由時間 (保護者自由交流会)	就寝
	7:30 9:30		11:00 11:20 11:40						
2/5 (日)	起 床	朝 食	活動④【ネイパル森】 雪上お宝さがし	アンケート 記入	閉 会 式	解散			

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 冬の野外活動を楽しむための内容設定
 - ・活動②では、スノーマウント作りや、活動③では、凍るシャボン玉作りや星座観察を行った。特別な道具を用意せず、積雪期や氷点下の季節を家族で楽しめるよう工夫した。
- 幼児がいる家庭でも安心して楽しめるプログラム構成
 - ・説明は、視覚的にわかりやすくなるよう、模範を示しながら行った。また家族の実態に合わせ活動中でも休めるようにしたことや自由時間を多めに設定したことなど、ゆとりを持って家族で過ごせる時間を確保した。

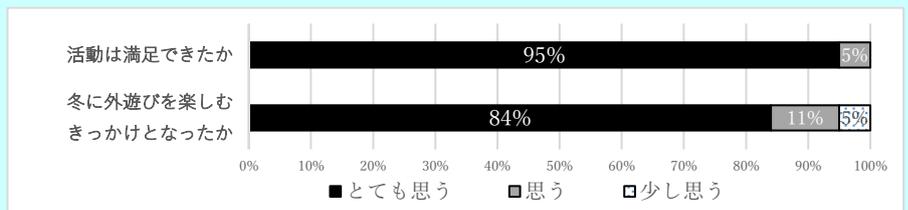


スノーマウント作り



凍るシャボン玉づくり

5 事業の評価



- 参加者アンケートから
 - ・ねらいに関する項目で、参加者の95%が肯定的な評価をした。
- 参加者の声
 - ・「雪遊びの幅が広がった。」「雪の中での遊び方がわかり、楽しめた。」など企画の意図に迫る感想が得られた。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 「子どもと真剣に雪遊びをすることができた。」「普段経験できない活動を家族で体験することができた。」などの声が多く得られたことから、親子でコミュニケーションを深める、冬期の活動を提供できたと考える。
- 保護者が自由に交流できる場を設けたが、入浴時間と重なり、参加者が少なかった。親子対象事業の実施する際に保護者の満足感を得られるプログラムを検討する必要がある。



企画のポイント

北海道の厳冬期を親子で楽しく過ごすきっかけとなる野外活動の提案。

ネイパル北見

ブース形式で様々な体験ができる ネイパル Thanks day

1 事業のねらい

利用団体に発表の機会を提供するとともに、利用者には様々な体験を紹介し、青少年教育施設に対する理解を深め、体験活動の普及と利用促進につなげる。

2 事業の概要

- 期日 R4.12.3(土)～4(日) 1泊2日
- 対象 宿泊：小学3～6年生 日帰り：どなたでも
- 人数 宿泊45名 日帰り1日目98名、2日目79名
- 場所 ネイパル北見
- 協力 オホーツク総合振興局産業振興部林務課、美幌博物館、紋別生涯学習センター、丸瀬布昆虫同好会 他

3 プログラム

日時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
12/3 (土)	宿泊			9:00～ 宿泊者 受付	荷物 整理	11時～15時 体験ブース① ※[昼食]11:30～13:30			ブース運営体験 準備	休憩	SP ディナー (食堂)	ナイト ステージ	入浴・就寝準備	就寝		
	日帰り			10:00～ 日帰り受付					日帰り体験①解散 15:00							
12/4 (日)	宿泊	起床・ 準備	朝食 (食堂)	点 検	ブース 準備	10時～14時 体験ブース② ※[昼食]11:30～13:30			片 付 け	閉 会 式	解散15:00					
	日帰り				9:00～ 日帰り受付				日帰り体験②解散 14:00							

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 地域との連携による多様な体験活動の設定
 - ・オホーツク総合振興局産業振興部林務課による「木のコースター作り」、紋別生涯学習センターによる「ボッチャ」、美幌博物館による「シカ笛作り」などオホーツク地域で体験活動を提供している各団体や住民、計13団体と連携し体験ブースを設置。多様な体験活動を提供できるよう工夫した。
- 参加者自身がブース運営に携わるプログラムの設定
 - ・2日目に宿泊参加者が運営するブースを設置。準備やブースのPR、来客対応も自分たちで行うことで、自主的に体験活動に関わる機会を設定した。



宿泊参加者が運営するブース



地元の団体が提供したリース作り

5 事業の評価



- 参加者アンケートから、参加者全体の事業満足度は「とてもよかった」が89.4%、「よかった」が10.6%と全ての参加者が肯定的な評価をした。
- いろいろな体験ができて、楽しかった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートで「いろいろな体験ができてよかった」という声があったことから、多様な体験ブースの設置が、体験活動への興味・関心の向上につながった。
- オホーツクの各市町村と連携し、各地域で提供している体験活動の紹介ブースや展示を設置するなどして、体験活動の普及によりつなげる工夫が必要である。



企画のポイント

地域の関係団体と連携した多様な体験活動の提供と、体験活動を普及する機会の創出。

郷土の自然を活かした学びと健康を推進する体験プログラム はじめてのトレイルランニング

1. 事業の目標

地域の自然に触れ魅力を再発見するとともに、生涯を通して健康な体を作る知識と技術を習得する。

2. 事業の概要

- 期日 R4.11.5(土)～11.6(日)
- 対象 18歳以上(高校生不可)
- 人数 9名
- 場所 ネイパル足寄
- 協力 小出 徹 氏 (プロランナー/SALOMON)

3. プログラム

6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22			
							受 付	開 会 式	「 ト レ イ ル ン ニ ン グ 」 講 座	講 座	実 技 講 習	入 休 室 憩	夕 食	講 座 「 コ ン プ ロ ト レ イ ル ン ニ ン グ 」	入 休 浴 憩	就 寝 準 備	検 温	就 寝	
起 検 床 温	朝 の 散 歩	朝 食	部 屋 清 掃 布 団 整 理	身 支 度	講 座 「 コ ン テ レ ン グ 」	講 座 「 ト レ イ ル ン ニ ン グ 」 記 録 会	閉 会 式	シャ ワ ー 等											

4. ねらいを達成するための工夫

参加者に正しい知識と技術を習得してもらうため、プロランナーからレクチャーを受け、職員のスキルアップを図り指導に活かした。また、安全に事業を行うことができるようコースや対応マニュアルを整備した。

セミナー全体を通して十勝の自然環境を活かし、トレイルランニング文化を定着させるため、運営者を含めたネットワークの構築を図った。



斜面を利用して練習



ランニング前のストレッチ

5. 事業評価



■参加者の声

- ・普段感じている自分の疑問に、プロランナーから回答してもらえたことがうれしかった。
- ・一泊二日で机上での講習から実技まで、この施設を活かした内容で大変満足しました。

6. ねらいを踏まえた成果と課題

○活動を通して「ためになった」「勉強になった」「楽しかった」という声が多く寄せられ、生涯を通じた学びを提供することができた。また、参加者のネットワークが構築され、互いの経験やスキルを交流していた。

●成人対象のプログラムにおいては、多様な実力をもつ参加者に対応できる内容を考える必要がある。



企画のポイント

事前に危険を予測し、必要に応じて外部と連携し体制を整える。

冬のスノーキャンドル泊

1. 事業の目標

- ・厳しい冬の中でも楽しめる遊びと宿泊体験を通して達成感や協調性、芸術的感性を養う。

2. 事業の概要

- 期日 R5.2.25 (土) ~2.26(日) 1泊2日
- 対象 小学4年生~6年生
- 人数 48名
- 場所 ネイパル足寄

3. プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
1日目	受付 9:30~10:30				受付	開会式	オリエンテーション	ブレイク	夕食	作業説明	スノーキャンドル作り	ローソクを使う練習	スノーキャンドルナイト	入室	夕食	入浴 自由時間	就寝準備	就寝
2日目	起床	洗面	布団消毒	検温・体操	朝食	部屋清掃	フォトスタンド作り	ふりかえり	閉会式	11:40解散								

【活動1：スノーキャンドル作り】…役割分担等作業の効率性を考え、作品作りを通して協調性を養う。

【活動2：スノーキャンドルナイト】…安全に配慮しながら火の美しさを味わい、芸術的感性を養う。

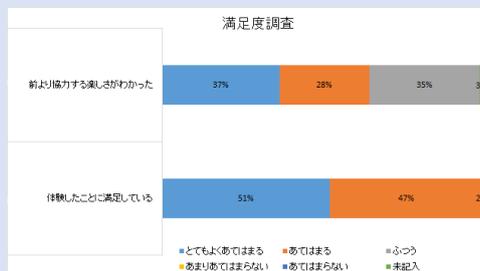
【活動3：フォトスタンド作り】…フォトスタンド作りを通して2日間の活動を振り返り、達成感を味わう。

4. ねらいを達成するための工夫

- ・参加者が協調性を意識することができるよう、話の聞き方や気持ちの伝え方等、コミュニケーションスキルを練習する場を設けた。
- ・「ローソクを使う練習」の時間で安全教育の充実を図り、「スノーキャンドルナイト」では火の美しさにより集中できるようにした。
- ・役割分担や作業の順番を参加者に決めて活動し、効率を振り返り工夫するというPDCAサイクルを用いることで、参加者の達成感を高めた。



5 事業の評価



■参加者の声

- ・協力の大切さを初めて学べたから協力しようと思った。
- ・火を扱うときは十分気を付けないといけないことを学んだ。
- ・危険なことや楽しいことを色々学んだ

6. ねらいを踏まえた成果と課題

- 参加者同士のコミュニケーションの場を意図的に設定することで、活動全体を通して協調性を意識させることができた。
- 冬の寒さが残る中、活動ごとに各会場への移動が多かったことでロスした時間や体力もあるため、時間配分にゆとりをもったプログラム作成をしていくことが必要。



企画のポイント

安全管理と体験内容の
すばらしさを両立させる
工夫が重要。

コーヒー教室 基礎編

1 事業のねらい

コーヒーという食にフォーカスし、歴史や基礎知識、淹れ方の技術を体験することで日々の生活を華やかなものにするとともに生涯学習の推進を図る。

2 事業の概要

- 期日 R4.11.10 (木)、11.24 (木)、12.8 (木) 日帰り3回
- 対象 高校生以上
- 人数 54名
- 場所 ネイパル足寄

3 プログラム

18時		19時			20時	
受付	開会式 ウェルカムドリンク試飲	コーヒー講座 ○コーヒーの歴史 ○焙煎 ○淹れ方等	コーヒー淹れ方講座 (ハリオ式ハンドドリップ体験)	コーヒー飲み比べ体験 (きっと見つかる好みのコーヒー)	フードペアリング体験 (コーヒーと食べ合わせ)	スペシャルコーヒー体験 開会式

【活動①コーヒー講座】 コーヒーに関する基礎知識（歴史、産地による違い、豆の精製方法、焙煎）を学ぶ。

【活動②ハンドドリップ講座】 ハンドドリップの仕方を学び、実践をする。

【活動③フードペアリング】 味わいの異なるコーヒーと食べ物の組み合わせによって変わる味わいを学ぶ。

4 ねらいを達成するための活動の工夫

■コーヒー講座

- ・知識を持って食を感じることで、味覚や嗅覚、食に関する捉え方がかわることを参加者に伝えた。
- ・コーヒーの知識だけではなくコーヒー原産国の社会的背景を伝えた。

■ハンドドリップ体験、フードペアリング、スペシャルドリンク

- ・コーヒー講座で学んだことを体験に取り入れることで、体験活動で実体験として発見につながるよう実施。体験活動の中にもミニ講義をいれることで学びと体験両方の側面を充足。

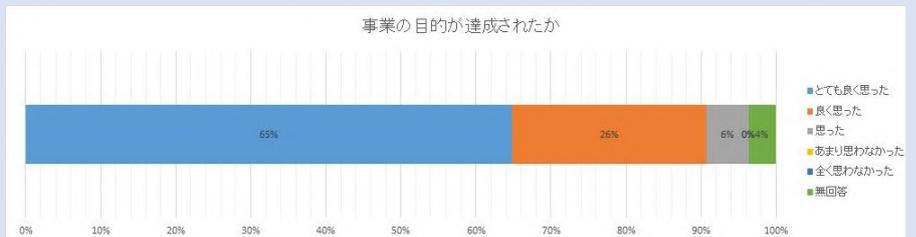


コーヒーに関する学びの時間！



参加者のハンドドリップ実践風景

5 事業の評価



■参加者の声

- ・実体験を通して変化するコーヒーの味や風味に驚きました。
- ・これまでのネイパルでは大人のまなびプログラムがなかったのですが企画していただけたらありがたいです。是非積極的に参加したい。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 講義をいれることで体験活動主体ではなく体験+学びを参加者に提供することができた。
- 体験活動は参加者同士で体験を共有することができ、コーヒー好き同士のコミュニティ促進につながった。
- スライドの文字が小さく文字の見えにくさを感じた参加者もいたため、1枚あたりのスライドに入れる情報量を整理する必要がある。



企画のポイント

知識や技術を習得し、味の善し悪しだけではなく、食を楽しむことのポイントを伝授した。

Week ball ちゃれんじ

1 事業のねらい

少年期の体力向上として、ボールを利用した様々な運動を行うことで、体の使い方や俊敏性、持久力を養い、心身の健全育成を図る。

2 事業の概要

- 期日 R4.12.6(火)、12.20(火)、R5.1.11(水) 日帰り 3回
- 対象 小学1年生～小学3年生
- 人数 15名
- 場所 ネイパル足寄

3 プログラム

16時30分			17時			18時	
受付	開会式	準備体操	ボールになれよう	ボールゲームのルールと練習	ボールゲーム	整理体操	ふすかえり 終了

【ボールになれよう】 ボールを使用した様々な運動にチャレンジして体の使い方や俊敏性を高める。

【ボールゲーム】 積極的にハンドパスボールのゲームに参加し判断力や持久力など体力の向上を図る。

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- ボールになれよう
 - ・当たっても痛くないやわらかいボールを使用し恐怖心をなくしたことにより、様々な運動に積極的にチャレンジできた。
- ボールゲーム
 - ・簡単なルールで低学年児童でもなじめる「ハンドパスボール」を実施した。ボール保持が3歩以内というルールの中で、自分で考え判断よくシュートやパスを行うことが見られるようになった。



2人で協力してボールキャッチ



ロングパス成功!



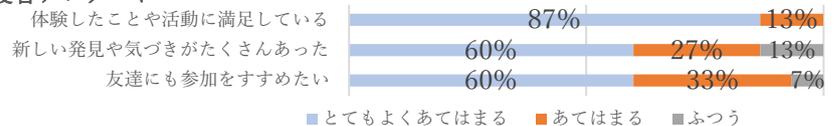
振り向いてシュートの場面

5 事業の評価

参加者アンケート



保護者アンケート



○参加者の声

- ・シュートを決められてうれしかった、また参加したいです。
- ・ちょっと難しかったけど、楽しかったです
- ・自分たちで考えて行動（パスの仕方、守り方など）する活動が多く、参加して大変良かった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 積極的に参加させることができ、様々な体の使い方や敏捷性を向上させる活動ができた。
- 楽しく運動しチャレンジすることにより、達成度を上げていき、自分の考えでゲームを進めるように促すことができた。
- より参加しやすい実施日時を再考し、さらに多くの参加を促すようにする。



企画のポイント

積極的に参加し運動を通して
自分で考え自立の姿勢と体の健全育成を図る。

ネイパル親子登山

1 事業のねらい

美しく雄大な自然に触れながら親子の絆を深め、登山を通して逞しい心身を育む

2 事業の概要

- 期日 R4.8.11(木) 日帰り
- 参加 親子8組 24名
- 場所 白湯山 (釧路市阿寒町阿寒湖温泉)

3 プログラム

	10:00	12:00	12:30	14:00
8/11 (木)	9:45~10:00 阿寒湖畔スキー場 駐車場 受付	白湯山登山 (阿寒湖一望コース)	昼食	下山 下山完了 阿寒湖畔スキー場 解散

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 地域の自然を体感するプログラム
 - ・今回の親子登山では、阿寒摩周国立公園の大自然を気軽に体感できる白湯山を選択。道中では様々な高山植物やニホントカゲなどの野生動物、アイヌ語で「煮え立つ場所」意味するボッケなど、地域ならではの自然に触れながら登山を行った。
- 適度な負荷と達成感を得られるプログラム
 - ・白湯山は山頂(白湯山展望台)までの距離約2kmと初心者でも歩きやすい山ではあるが、要所に勾配があるため小学校低学年にとっては適度な負荷がかかる。また、登頂すると阿寒湖と周辺の山々が一望でき、十分な達成感を得られる山である。



白湯山山頂で集合写真



自然観察をしながら登山

5 事業の評価

- 参加者の声
 - ・参加した保護者からは「家族で山登りをしてみたかったが、経験がないので今まで出来なかった。他の家族やスタッフがいると安心して登れるのでありがたい」「楽しかったので、今度は家族だけで別の山に登ってみたい」などの声があった。未経験や初心者の親子を対象とした登山ツアーは周辺であまり行っていないため、一定の需要がある。
 - ・参加した子どもは「トカゲがみられてびっくりした」「黒曜石を見つけてよかった」など話していた。自然を観察しながら登山を楽しむことができた。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 阿寒の自然を観察しながら親子との会話がみられ、事業のねらいである自然に触れながら親子で交流する場を創出することができたことを考察する。
- 白湯山山頂には「標高〇〇m」と記載された看板のようにわかりやすい目印がないため、手作りの看板を用意するなど「登頂した」と実感できるような工夫を取り入れたい。



企画のポイント

登山を通して地域ならではの自然を体験するとともに、親子の交流の場を創出する。

美しく雄大な自然に触れながら親子の絆を深める

ネイパル厚岸

ネイパル親子登山（秋）

1 事業のねらい

美しく雄大な自然に触れながら親子の絆を深め、登山を通して逞しい心身を育む。

2 事業の概要

- 期日 R4.10.8(土) 日帰り
- 対象 親子参加（小学1年生以上の児童生徒と保護者）
- 人数 親子9組32名
- 場所 白湯山（釧路市阿寒町阿寒湖温泉）

3 プログラム

	11:00	13:00	13:30	15:00
10/8 (土)	10:45~11:00 阿寒湖畔スキー場 駐車場 受付	白湯山登山 (阿寒湖一望コース)	昼食	下山 下山完了 阿寒湖畔スキー場 解散

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 親子での会話が深まる登山計画
 - ・阿寒摩周国立公園内に位置する白湯山で実施。登山道では紅葉やきのこ、野鳥等が見られる。先導する職員で歩く速度を調節し、休憩回数を多くとることで、親子間の会話が自ずと生まれるようにした。
- 適度な負荷と達成感を得ることができるプログラム
 - ・白湯山は周辺の阿寒の山と比較すると標高が低いため初心者でも安心して登れるが、起伏があり、適度な負荷が得られた。また、山頂で横断幕に各々メッセージを残し、全員で登頂達成の気持ちを分かち合うことができるよう工夫した。



白湯山山頂で集合写真



親子で自然とふれあう

5 事業の評価

- 参加者の声
 - ・初めての登山者がたくさん居るなかで、安心安全を第一に考えてサポートしていただき楽しく登山をすることができた。
 - ・地域の魅力を知る良いきっかけになった。
 - ・体験は思い出になり子どもの心を育み、親子交流は絆を深めると思うから今後も続けてほしい。
 - ・初登山だったが、個人でやるよりハードルが低く、楽しんで参加出来た。色々な事に挑戦出来てよい。
 - ・参加している子ども同士が少し交流出来たらさらによかった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 阿寒の自然を観察しながら親子との会話がみられ、事業のねらいである自然に触れながら親子で交流する場を創出することができたと考察する。
- 今回は家族単位での活動を中心としたため、家族間の交流を持つ機会がなかった。開会式の際にアイスブレイクや自己紹介の時間を設けるなど、家族間で交流するきっかけをつくれたらよい。



企画のポイント

登山を通して地域ならではの自然を親子で体験することで、親子の絆を深めた。

ネイパル厚岸

はじめてのおとまり（体づくり編）

1 事業のねらい

親元を離れての宿泊や、運動を通じた集団での活動を通し、新しいことに積極的にチャレンジする姿勢と運動能力を育む

2 事業の概要

- 期日 R4.12.10(土)11日(日) 1泊2日
- 参加 小学1-2年生 29名
- 場所 ネイパル厚岸

3 プログラム

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21		
12/10 (土)				12:30 受付開始 13:00 開会式			受 付	開 会 式	自 己 紹 介 等	準 備 体 操	マ ツ 運 動 て つ ぼ う か け っ こ	休 け い	コ ー デ ィ ネ ー シ ョ ン 運 動	ミ ッ シ ョ ン 説 明	夕 食	入 浴 自 由 時 間	就 寝 準 備 寝
12/11 (日)	起 床 ・ 洗 面	朝 食	部 屋 点 検	準 備 体 操	ス ポ ー ツ 体 験 ①	休 け い	ス ポ ー ツ 体 験 ②	休 け い	ま と め	閉 会 式	12:00 解散						

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 運動能力を向上させるためのプログラム
 - ・今までにない運動をメインとした事業展開により（体操教室・コーディネーション運動・スポーツ体験等）体力向上のみならずボディコントロール（体の使い方）までを視野に入れた指導の工夫
- 職員及びボランティア研修の実施
 - ・(株)オカモトの体操指導ノウハウを落とし込むため職員に指導研修を実施。また、ボランティア打ち合わせ時にPM理論など傾向別の指導法をレクチャーすることで、班のまとめやグルーピングしやすいよう工夫
- 厚岸・足寄各々に指導者派遣を行い実施カリキュラムの幅を広げた



コーディネーション運動の実施写真



パスハンドボール体験指導:足寄西尾副所長

5 事業の評価

■参加者の声

- ①運動能力
 - ・以前よりかけっこが速くなった…19件
 - ・逆上がりの力がついた、腕の力がついた…10件
 - ・キャッチする力があがった…8件
 - ・マット運動がうまくなった…3件、他
- ②生活能力
 - ・あいさつをちゃんとできた…3件
 - ・ふとんをちゃんとたためた…9件
 - ・体を自分で洗えた、静かに寝られた…7件、他

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 運動を中心としたテーマで行う事でプログラムの目的が明確になり、班ごとのチームワークや各々のチームで規律を守る姿勢が見られた。
- 「はじめてのおとまり」ということで低学年をターゲットにしたものとなったが運動生理学的に言うとな学年まで範囲を広げて行った方が良かった。次回は「はじめてのおとまり」とは別企画として事業を行いたい。



企画のポイント

運動を通し、能力向上はもとよりチームでの仲間を思いやる気持ちやなんでも自分でチャレンジする姿勢を育んだ。